

▼ ラベルは簡単にはがせます

# 株主の皆様へ

第156期

第2四半期事業のご報告

2020年4月1日～2020年9月30日



お客様、社会のニーズに応える  
 新たな「物流エコシステム」を創出し、  
 次の時代も豊かな社会の創造に  
 持続的な貢献を果たすとともに、  
 収益性の改善を加速させてまいります。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第156期第2四半期(2020年4月1日~2020年9月30日まで)における経営環境は、新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワークの推進、診療や教育分野におけるサービスのオンライン化など、ライフスタイルやビジネス環境が変化する中、EC利用者の裾野が拡大するなどEC領域の成長が加速しています。一方で、世界的な経済活動の再開に伴い、生産活動や貿易に持ち直す動きが見られたことに加え、官民一体型の需要喚起キャンペーンなどによりサービス業でも景況感に底打ちの兆しが出ていたものの、今後の経営環境への影響は依然として不透明な状況にあります。

このような状況のもと、ヤマトグループはお客様、社会のニーズに応える「新たな物流のエコシステム」を創出することで、豊かな社会の創造に持続的な貢献を果たしていくため、中長期の経営のグランドデザインである経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」に基づき、宅急便のデジタルトランスフォーメーション、ECエコシステムの確立、法人向け物流事業の強化の3つの事業構造改革と、グループ経営体制の刷新、データ・ドリブン経営への転換、サステナビリティの取組みの3つの基盤構造改革を推進しています。

当第2四半期においては、新型コロナウイルスの今後の感染状況や収束時期が不透明な中、引き続き、お客様、社員の安全

を最優先に、宅急便をはじめとする物流サービスの継続に取り組まれました。また、ライフスタイルやビジネス環境の変化によりお客様に生じる課題の把握に努め、成長が加速するEC領域において、新配送サービスの拡販と更なる利便性の向上に取り組むなど、多様化するニーズへの対応を推進するとともに、グループ全体でアカウントマネジメントを強化し、遠隔医療分野における遠隔処方領域において調剤薬局様に向けたソリューションを提供するなど、お客様の課題解決に取り組まれました。

これらの結果、連結業績は、営業収益は成長が加速するEC領域に対応したことで、荷物の取扱数量が増加したことなどにより前年同期に比べ増収となりました。また、営業利益については、荷物の取扱数量が増加する中、データ分析に基づく経営資源の最適配置による集配効率の向上や幹線輸送の効率化推進により費用の適正化に取り組んだことなどにより、前年同期に比べ増益となりました。

ESGの取組みとしては、持続的な成長と持続可能な社会の発展を両立するため、経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」に基づき、サステナビリティの取組みを推進しています。持続可能な未来を切り拓く将来の姿として掲げたビジョン「つなぐ、未来を届ける、グリーン物流」と、「共創による、フェアで、“誰一人取り残さない”社会の実現への貢献」のもと、人や資源、情報を高度につなぎ、輸送をより効率化させることで、環境や生活、経済によりよい物流の実現を目指し、特定した重要課題に対する取組みを推進しています。

今後も、お客様、社会のニーズに応える新たな「物流エコシステム」を創出し、次の時代も豊かな社会の創造に持続的な貢献を果たすとともに、収益性の改善を加速させてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後もヤマトグループに、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 社長執行役員  
 長尾 裕

決算 ハイライト	前第2四半期(累計) (単位:億円)	当第2四半期(累計) (単位:億円)	増減 (単位:億円)	伸率
営業収益	8,001	8,060	▲ 59	0.7%増
営業利益	62	269	▲ 207	333.2%増
経常利益	27	279	▲ 252	923.0%増
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	△34	141	▲ 176	—

# 経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」

2020年1月、ヤマトグループは、多様化するお客様ニーズや加速する産業のEC化など環境変化に対応すべく、経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」をスタートさせました。そして、本プランに基づき推進してきた経営構造改革は、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機としたライフスタイルやビジネス環境の変化にも対応するものであります。Withコロナ、Afterコロナの社会を見据え、引き続き「YAMATO NEXT100」の取組みを加速させていきます。



## ▶経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」

2020年1月に中長期の経営のグランドデザインとして策定した本プランに基づき、ヤマトグループは全社一丸となって構造改革を推進しています。新型コロナウイルス感染症を契機とした環境変化を踏まえて加速させた「ECエコシステムの確立」の取組みについて、P3にて詳細をご紹介します。

<b>目的</b>	社会インフラの一員として、これからも社会の課題に正面から向き合い、お客様、社会のニーズに応える新たな物流のエコシステムを創出することで、次の時代も豊かな社会の創造に持続的な貢献を果たす企業となること		
<b>基本戦略</b>	1. お客様、社会のニーズに正面から向き合う経営への転換	2. データ・ドリブン経営への転換	3. 共創により物流のエコシステムを創出する経営への転換
<b>構造改革</b>	3つの事業構造改革		3つの基盤構造改革
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 宅急便のデジタルトランスフォーメーション</li> <li>② ECエコシステムの確立</li> <li>③ 法人向け物流事業の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① グループ経営体制の刷新</li> <li>② データ・ドリブン経営への転換</li> <li>③ サステナビリティの取り組み 「環境と社会を組み込んだ経営」</li> </ul>	

## ▶新型コロナウイルス感染症の影響にも対応しうる「YAMATO NEXT100」

新型コロナウイルス感染症の影響による新たな環境変化を踏まえ、ヤマトグループは経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」に基づく取組みを更に加速させていきます。

「YAMATO NEXT100」策定時の課題認識		新型コロナウイルス感染症の影響
社会的な課題	ヤマトグループにとっての課題	
お客様の「期待」「ニーズ」の多様化	荷物の届け方／受け取り方の多様化だけでなく、より深くお客様に向き合い、新しいサービスを創り出す	ライフスタイルやビジネス環境の変化が加速
産業のEC化	産業のEC化の中心にヤマトを積極的にポジションし、高成長の好機と捉える。そのために、経営構造を再構築するとともにデータ・ドリブン経営へシフトする	産業のEC化が加速
総人口の減少と地域社会インフラの衰退	地域のインフラとしてのサプライチェーンを再構築し、ヤマトが根差す地域社会の持続可能性向上に貢献する	地域コミュニティの課題が深刻化
労働人口の縮小	徹底的な機械化による省人化により、「業務量の増加に対し、人を増やさない経営」をする	EC拡大による業務量増加
気候変動と資源減少	社会的インフラ企業としてサステナビリティの取組みに対する責任を果たす	企業経営におけるサステナビリティの重要性が増大

# ECエコシステムの確立に向けた取組み

持続的な成長に向けて、急速に進む「産業のEC化」に対応し、EC購入者様やEC事業者様の新たなニーズに応える物流サービスの創出に取り組んでいます。



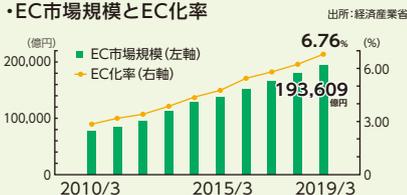
商品・サービスを問わず、あらゆるものをECで手に入れられる「産業のEC化」が進展しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で「産業のEC化」が更に加速する中、ヤマト運輸は大手EC事業者様や配送事業者など外部の配送パートナーとの協業により、2020年6月、EC購入者様・EC事業者様・配送事業者の全てをデジタル情報でリアルタイムにつなぎ、

購入・配送・受け取りの利便性と安全性、効率性を徹底して向上させる新配送サービス「EAZY」の提供を開始しました。また、EC事業者様の受注から出荷・配送までのサプライチェーン構築支援や、EC購入者様の受け取り拠点の拡大など、パートナーとの連携によるソリューションの提供にも取り組んでいます。

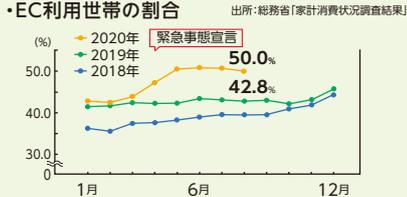
## 新型コロナウイルス感染症を契機にEC化が加速

### ・EC市場規模とEC化率



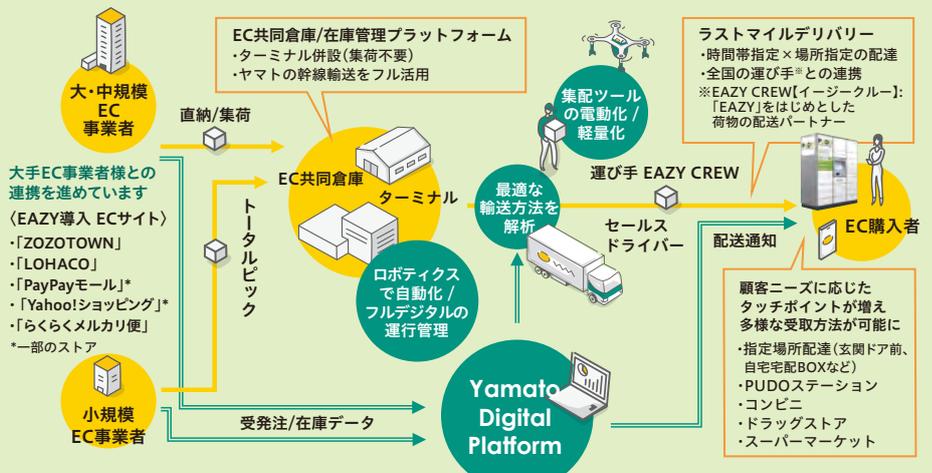
国内におけるECの市場規模は増加傾向にあるものの、EC化率は他国と比べて低いことから拡大余地があります。

### ・EC利用世帯の割合



「緊急事態宣言」下での「巣ごもり消費」を契機に、これまでEC利用率の低かった高齢者層も含めて利用が拡大しています。

## ●ECエコシステムの確立により目指す姿 《ECエコシステムの概念図》



### メリット

#### EC事業者

- 販売機会の拡大
- 在庫・事務コスト最小化

#### 配送事業者(運び手)

- 業務量の予測が可能(リソース最適化)
- 安定したサポート体制
- 再配達的大幅低減

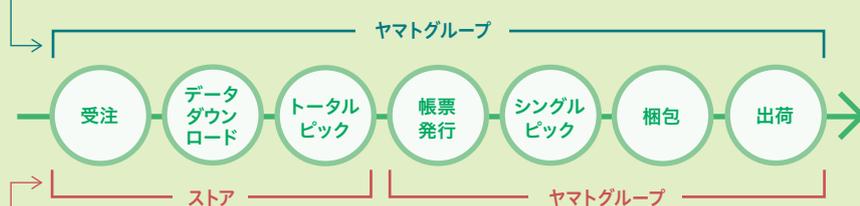
#### EC購入者

- 注文～受け取りのリードタイム短縮
- 多様な受け取りの選択が可能

## ●Zホールディングスとの連携による新たな物流サービス

### ・フルフィルメントサービス

受注から商品保管、ピッキング、梱包、出荷、配送までの全ての業務をヤマトグループが提供



### ・ピック&デリバリーサービス

出店ストア側で当日発送商品をトータルピッキング後、ヤマトグループがピッキング、梱包、出荷、配送を実施

当社は、2020年6月よりZホールディングス株式会社と連携し、「Yahoo! ショッピング」および「PayPayモール」の出店ストア向けに、新たな物流サービスの提供を開始しました。出店ストアの規模に応じて、受注から出荷・配送業務までの全体を代行する「フルフィルメントサービス」と一部機能を代行する「ピック&デリバリーサービス」の提供を通じて、商品の注文から受け取りまでのリードタイム短縮、ストアでの物流に関わる業務負荷の軽減や物流コストの最適化、EC購入者様の利便性の向上を目指しています。将来的には、蓄積されたデータを活用・分析し、需要予測を行うことで、最適な消費地への事前の在庫移動による更なるリードタイムの短縮やコスト削減を実現していきます。

## ●ニューノーマル時代のEC商品受け取りサービス 全国約600店舗の新たな拠点でEC商品の受け取りが可能に

当社とDoddle社は、「EAZY」導入事業者様とEC荷物の受取拠点として参画するドラッグストアやスーパーマーケットなどに、Doddle社の「Click & Collectシステム」を導入し、2020年11月より新たなEC商品受け取りサービスを開始しました。導入店舗様は専用端末を設置するだけで簡単にサービスを開始でき、EC購入者様にとっては生活スタイルに合わせて気軽に簡単に荷物を受け取れる拠点が拡大します。

# サステナビリティの取組み－「環境と社会を組み込んだ経営」－

更なる「働きやすさ」と「環境への配慮」をコンセプトにした

新制服とともに、「NEXT100」に向けた取組みを加速させていきます。

2020年9月、ヤマトグループの制服が生まれ変わりました。更なる「働きやすさ」の実現に向けて、生地の伸縮性・耐久性、安全性の向上、防寒対策など、さまざまな技術や工夫を取り入れました。また、「環境への配慮」として生地に植物由来PET素材<sup>\*</sup>を採用しました。一般的な化石燃料由来PET素材と比べて、制服約220万点（初回製

造枚数計算）で約500tCO<sub>2</sub>の二酸化炭素削減に効果があるとされています。（出典：東レ株式会社）新たな働き方や、持続可能な社会づくりにつながる制服で、社員の誇りの醸成や仕事へのモチベーション向上を図ります。

<sup>\*</sup>さとうきび廃糖蜜（砂糖をつくる工程の副産物）を粗原料としている。  
（単位）tCO<sub>2</sub>：二酸化炭素に換算した重量（=tCO<sub>2</sub>e）



環境への配慮

① 植物（さとうきびの廃糖蜜）由来PET素材を使用した商品として、「エコマーク」（タイプI 環境ラベル）の認定を取得しています。

② 使用後の制服（生地の全て）は、マテリアルリサイクルを実施し、資源循環を促進します。




働きやすさ



① 伸縮性・耐久性の向上

新素材で従来よりも大幅な伸縮性を実現しながら十分な強度と耐久性を実現しました。



② 安全性の向上

防寒着・ブルゾン・安全靴・ベルトに反射材を使用。夜間の視認性を高めました。



③ 防寒対策

地域の気候に応じた3タイプを用意。中綿の量を調整し、暖かさと働きやすさのバランスを最適化しています。



## 社員満足を高めて、多様な人材から選ばれる会社に。

ヤマトグループは、社員が「働きやすさ」と「働きがい」を持ちイキイキと働くことができる労働環境の整備に取り組んでまいりました。（右図参照）

2020年3月以降、「巣ごもり消費」の影響によりEC関連の荷物量が増加し、現場は逼迫した状況が続く中、当社グループは、社員とその家族、お客様の安心安全を確保することを最優先に、お客様に対してはご自宅での非対面でのお届けなど感染予防対策を徹底しました。また、社員に対してはマスクや消毒液の支給や出勤前の検温などの健康管理に加え、心理的・身体的不安の中、事業継続を支えてくれたことに対する見舞金の支給など、「働きやすさ」「働きがい」の維持に努めました。引き続き社員満足を高めるとともに多様な人材から選ばれる会社となるため取り組んでいきます。

### 働き方意識調査結果

●「働きやすい」と回答した社員の割合（%）



●「働きがいがある」と回答した社員の割合（%）



●「働き続けたい」と回答した社員の割合（%）





株主の皆様の優先ご招待枠を設けました。

ぜひ  
ご応募  
ください。

## 「羽田クロノゲート」& 「関西ゲートウェイ」見学コースのご案内

スピード輸送ネットワークと高度な付加価値機能を一体化した物流ターミナルの見学コースです。  
ヤマトグループが提供する「物流の付加価値」をご体感ください。

- 他の株主様や一般のお客様と合同の最大10～15名のグループごとでの見学です。
- 見学時間は羽田クロノゲートは約90分間、関西ゲートウェイは約80分間です。見学中に休憩時間は設けておりません。
- アクセス ※電車・バス等の公共交通機関のご利用をお願いします。  
※往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

- 羽田クロノゲート** 所在地 東京都大田区羽田旭町11-1  
・京浜急行空港線「穴守稲荷駅」より 徒歩約5分  
・東京モノレール「天空橋駅」より 徒歩約10分
- 関西ゲートウェイ** 所在地 大阪府茨木市松下町3-1  
・東海道本線「茨木駅」より バスで約10分  
・阪急京都線「茨木市駅」より バスで約13分

開催日時／2021年3～6月の土日祝日(下記の色がついている日) 集合・解散場所／羽田クロノゲート・関西ゲートウェイ 各受付

2021.3

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

■ 14:00～ ■ 10:00～

2021.4

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2021.5

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2021.6

日	月	火	水	木	金	土
						1
						2
						3
						4
						5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

※ご応募多数の場合は抽選によるご招待とさせていただきます。 ※当日の集合場所等の詳細は、当選した株主様へご案内させていただきます。

### 応募要項

● **応募締切** 2021年1月31日(日) ※2021年1月31日消印有効

● **ご招待人数** 各回4名(株主様1名につき同伴者1名まで)

● **応募方法**

#### ① WEBで応募

下記サイトへアクセスの上、専用応募フォームよりご応募ください。

ヤマトホールディングスホームページ>株主・投資家情報

>IR資料室>株主の皆様向け冊子

<https://www.yamato-hd.co.jp/investors/library/report/>

アンケートナンバー ⇒ ●●●●●●●●



#### ② ハガキで応募

郵便ハガキをご用意いただき、必要事項①株主様ご本人のお名前②ふりがな③郵便番号④ご住所⑤年齢⑥ご連絡先電話番号⑦参加ご希望日とご希望の施設(羽田または関西)⑧同伴者の有無(有の場合:同伴者のお名前、ご住所、電話番号)をご記入の上、送付をお願いいたします。

ハガキ送付先:

〒100-6026

東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング26階

ヤマトホールディングス(株)

「羽田クロノゲート・関西ゲートウェイ見学応募」係

ご当選の発表は、2021年2月下旬頃のご案内の発送をもって代えさせていただきます。

#### ● ご注意

- ・ご応募は株主様お一人1回限りさせていただきます。WEBとハガキの両方でご応募があった場合は、WEBのご応募を優先させていただきます。
- ・ご応募の際は必ず同伴者の有無とご希望の施設(羽田または関西)をご入力(ご記入)ください。
- ・見学コース内でのカメラ、携帯電話などによるビデオ撮影、録音はできません。写真については一部お撮りいただけますが、当日の注意事項に従ってください。
- ・作業の都合上、見学中に機械が動いていない場合があります。
- ・天候・当施設の都合等により、やむを得ず見学を中止、または内容を変更する場合があります。
- ・小学生以下のお子様には保護者の方がご同伴ください。
- ・当選した権利を他人に譲渡することはできませんのでご了承ください。
- ・今回ご応募いただきました株主様の個人情報は見学コースのご招待に係る業務以外での目的には使用いたしません。

感染予防対策に伴い、ご応募時に見学者様(同伴者含む)のご連絡先等、情報提供のご協力をお願いいたします。また、当日の受付時に検温と手指消毒、健康状態に関する確認書のご記入をお願いいたします。37.5度以上の発熱が確認された場合は、ご入場をお断りさせていただきますことご了承ください。このほか、当選株主様へのご案内に記載のお願いと注意事項にご同意くださいますようお願いいたします。

ご理解とご協力をお願い申し上げます。

※見学コース再開に伴う施設の感染予防対策とお客さまへお願い

羽田クロノゲート見学コース

<https://www.yamato-hd.co.jp/facilities/haneda-chronogate/news/20200702.html>

関西ゲートウェイ見学コース

<https://www.yamato-hd.co.jp/facilities/kansai-gateway/news/20200624.html>

#### ● ご質問などのお問い合わせ先

ヤマトホールディングス(株)「株主様応募企画 お問い合わせ窓口」

TEL 03-6362-9625 平日9時～17時 ※12月29日～1月3日除く  
(お電話によるご応募は受け付けておりません)



音楽宅急便

「クロネコファミリーコンサート」のご案内

本年はオンラインで開催をいたしました。当日のLive映像に加え、全国5都市・5楽団の収録映像も公開していますのでぜひご覧ください。

<https://www.yamato-hd.co.jp/csr/society/education/concert.html>



「ヤマトグループ歴史館

クロネコヤマトミュージアム」のご案内

ヤマトグループが創業100周年を迎えたことを記念して設立しました。歴史館を訪れた皆様には、ヤマトグループがお客様とともに歩んできた100年の歴史を振り返っていただくことができます。

<https://www.yamato-hd.co.jp/museum/>

# 事業フォーメーション別概況・収益構成

## デリバリー事業

宅急便・クロネコDM便  
などを中心とする  
小口貨物輸送サービス



ヤマトグループに  
おける収益構成

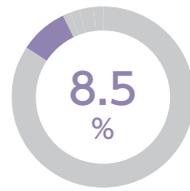


## BIZ-ロジ事業

ロジスティクス事業など  
企業向けの革新的な  
物流システム



ヤマトグループに  
おける収益構成



## ホームコンビニエンス事業

生活サポート・  
流通サービスを中心とした  
総合支援サービス



ヤマトグループに  
おける収益構成



## e-ビジネス事業

IT、AI、IoTなどの新技術を  
活用した情報システム開発や  
事業サポート



ヤマトグループに  
おける収益構成



## フィナンシャル事業

通販商品の代金回収、  
企業間決済などの  
決済・金融サービス



ヤマトグループに  
おける収益構成



## オートワークス事業

車両整備や物流施設・設備機器の  
維持保全、保険提案などの  
トータルサポート



ヤマトグループに  
おける収益構成



\*フィナンシャル事業は、ヤマトリース株式会社を連結子会社から持分法適用関連会社とした影響を含んでいます。

# 連結財務諸表(要旨)

## 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2019年4月1日～ 2019年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2020年4月1日～ 2020年9月30日
営業収益 ..... Point 1	800,126	806,067
営業原価	765,664	748,694
営業総利益	34,462	57,373
販売費及び一般管理費	28,248	30,457
営業利益 ..... Point 2	6,213	26,915
営業外収益	1,235	2,014
営業外費用	4,719	996
経常利益	2,730	27,933
特別利益	3	911
特別損失	224	1,869
税金等調整前四半期純利益	2,509	26,975
法人税等	5,802	12,704
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,292	14,271
非支配株主に帰属する四半期純利益	167	84
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) ..... Point 3	△3,459	14,186

### ポイント解説

#### Point 1

営業収益は、成長が加速するEC領域に対応した結果、荷物の取扱数量が増加したことなどにより、前年同期に比べ59億41百万円増加し、8,060億67百万円となりました。

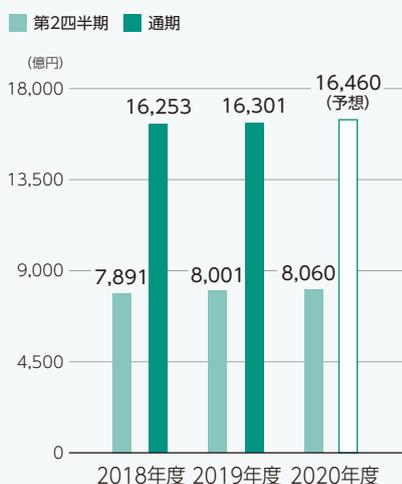
#### Point 2

営業利益は、荷物の取扱数量が増加する中、データ分析に基づく経営資源の最適配置による集配効率の向上や幹線輸送の効率化推進により費用の適正化を推進したことなどにより、前年同期に比べ207億1百万円増加し、269億15百万円となりました。

#### Point 3

親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業利益の増加などにより、前年同期に比べ176億45百万円改善し、141億86百万円となりました。

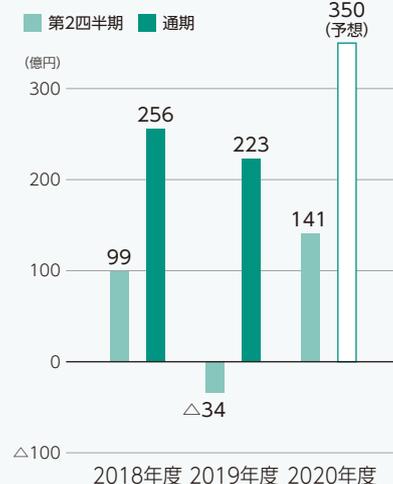
### 営業収益



### 営業利益 / 営業利益率



### 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益(損失)



## 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結 会計年度 2020年3月31日	当第2四半期 連結会計期間 2020年9月30日
<b>[資産の部]</b>		
流動資産	542,884	490,561
固定資産	557,855	551,881
有形固定資産	423,835	409,569
無形固定資産	20,965	24,562
投資その他の資産	113,054	117,748
<b>資産合計</b> ..... Point ①	<b>1,100,739</b>	<b>1,042,443</b>
<b>[負債の部]</b>		
流動負債	408,811	377,967
固定負債	129,093	130,580
<b>負債合計</b> ..... Point ②	<b>537,904</b>	<b>508,548</b>
<b>[純資産の部]</b>		
株主資本	551,024	519,501
その他の包括利益累計額	4,148	6,678
非支配株主持分	7,662	7,715
<b>純資産合計</b> ..... Point ③	<b>562,835</b>	<b>533,895</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,100,739</b>	<b>1,042,443</b>

### ポイント解説

#### Point ①

資産合計は、ヤマトリース株式会社を連結子会社から持分法適用関連会社としたことに伴いリース投資資産および貸与資産が減少したことなどにより、前連結会計年度に比べ582億96百万円減少し、1兆424億43百万円となりました。

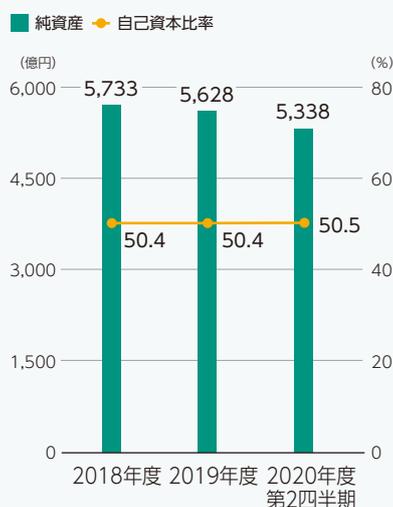
#### Point ②

負債合計は、借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度に比べ293億56百万円減少し、5,085億48百万円となりました。

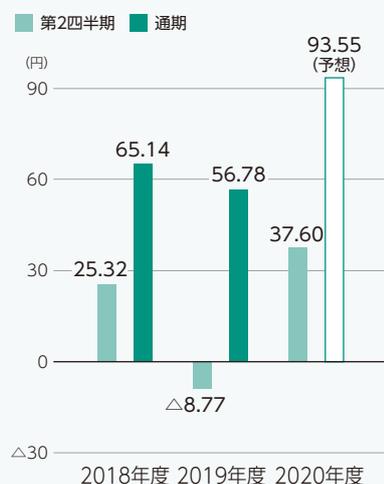
#### Point ③

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益が141億86百万円となった一方で、剰余金の配当を実施したこと、および自己株式を取得したことなどにより、前連結会計年度に比べ289億39百万円減少し、5,338億95百万円となりました。

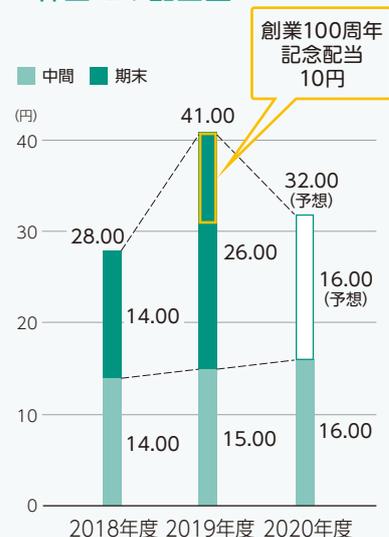
### 純資産／自己資本比率



### 1株当たり四半期(当期)純利益(損失)



### 1株当たり配当金



# 連結財務諸表(要旨)

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2019年4月1日～ 2019年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2020年4月1日～ 2020年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー <span style="color:red">Point 1</span>	1,737	29,992
投資活動によるキャッシュ・フロー <span style="color:red">Point 2</span>	△33,854	71,552
財務活動によるキャッシュ・フロー <span style="color:red">Point 3</span>	△13,600	△74,318
現金及び現金同等物に係る換算差額	△195	△293
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△45,913	26,932
現金及び現金同等物の期首残高	194,650	196,662
現金及び現金同等物の四半期末残高	148,737	223,595

より詳細な連結財務諸表につきましては、  
ホームページ(<https://www.yamato-hd.co.jp/>)をご覧ください。

ヤマトホールディングス 財務

検索

### ポイント解説

#### Point 1

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が増加したこと、および法人税等の支払額が減少したことなどにより、前年同期に比べ282億54百万円増加し、299億92百万円の収入となりました。

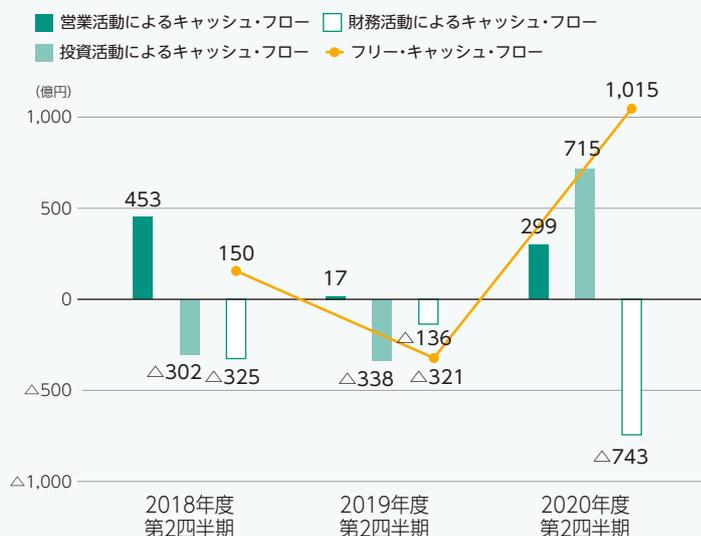
#### Point 2

投資活動によるキャッシュ・フローは、貸付金の回収による収入が増加したことなどにより、前年同期に比べ1,054億7百万円増加し、715億52百万円の収入となりました。

#### Point 3

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の収支が減少したこと、および自己株式を取得したことなどにより、前年同期に比べ607億18百万円増加し、743億18百万円の支出となりました。

### キャッシュ・フロー



### 自己株式の取得と消却について

当社は、株主価値向上のため、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策として、2020年2月から9月の期間で自己株式を約500億円、2,276万株取得するとともに、2020年10月に同株式を消却しました。

# 株式の状況 / 会社概要 (2020年9月30日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数	1,787,541,000株
発行済株式の総数	411,339,992株
株主数	45,791名

## 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	49,741	13.39
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	24,197	6.51
ヤマトグループ社員持株会	23,175	6.24
明治安田生命保険相互会社	14,814	3.99
日本生命保険相互会社	14,770	3.98
株式会社みずほ銀行	10,247	2.76
ヤマトグループ取引先持株会	8,435	2.27
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	6,921	1.86
トヨタ自動車株式会社	5,748	1.55
JP MORGAN CHASE BANK 385781	5,568	1.50

※自己株式は上記の大株主一覧より除外しています。  
 ※持株比率は自己株式数を控除して算出しています。

## 会社概要

商号	ヤマトホールディングス株式会社
本店所在地	〒104-8125 東京都中央区銀座二丁目16番10号 TEL 03-3541-4141(代表)
創業	1919(大正8)年11月29日
設立	1929(昭和4)年4月9日
資本金	127,234,791,077円

### ●ヤマトホールディングスホームページのご案内●

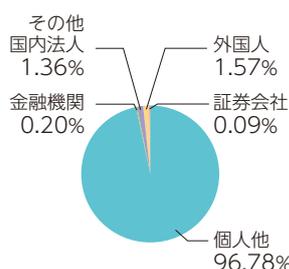
ヤマトグループに関するさまざまな情報がご覧いただけます。

<https://www.yamato-hd.co.jp/>

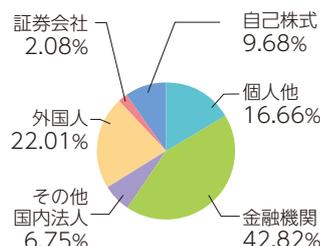
## 株価・売買高の推移(東京証券取引所)



## 株主数比率



## 株式数比率



## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月に開催
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	中間配当を行う場合には、9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事務取扱所 (手続お申出先)	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324
公告方法	電子公告 ( <a href="http://www.yamato-hd.co.jp">http://www.yamato-hd.co.jp</a> ) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
銘柄コード	9064

## ヤマトホールディングス株式会社

〒104-8125 東京都中央区銀座二丁目16番10号

TEL 03-3541-4141(代表)

<https://www.yamato-hd.co.jp/>



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた  
見やすいデザインの文字を採用しています。